

## コラム・GO! GO! エレクトリシャン No.53

※(旧 DENKOU-SAN いらっしゃい!)

### 華麗なるショーウィンドウ・ディスプレイの世界 クリエイターはエレクトリシャンのひそかな仲間

子どもの頃からショーウィンドウを見るのが大好きだった。大都市の百貨店から地方小都市の商店街のショーウィンドウに至るまで、工夫を凝らしたディスプレイがあると、今でもつい、見入ってしまう。

20世紀のアメリカに生きた知る人ぞ知る芸術家に、ジョゼフ・コーネル(1903-1972)という人がいる。

コーネルは自作の箱のなかに一見ガラクタのようなモノ(壊れた玩具、人形、プロマイド、木屑、葉っぱ、ガラス玉、鳥の羽、古新聞の切れ端、等々)を組み合わせ、思いもよらぬ《仮想世界》を創り出す名人だった。それは誰もが心の奥底に記憶しているけれども、普段は忘れてしまっているような「思い出」の世界を、ジオラマにしたような作品群。コーネルの世界に反応できる人々は、コーネルの作った箱のなかの世界に、それぞれ勝手に、自分の大切な思い出(あるいは哀しい思い出)を投影し、ため息をつく。

そんな芸術作品とはちょっと趣が違うけれども、ショーウィンドウのなかに展開される「優れたストーリー」は、時にコーネルの箱と類似した心理効果を見せる人に与えてくれる。もとよりショーウィンドウ・ディスプレイの目的は広告なので、永遠不滅の時間を生き抜くコーネルの箱と違い、ほとんどは一過性の展示で終わる。しかし、非常に優れたディスプレイの与える心理効果の大きさには、前述のように、時としてコーネルの箱にも遜色ない場合もあるのだ。

そしてショーウィンドウ・ディスプレイにあって、コーネルの箱にはないものが「照明効果」だ。ショー

ウィンドウのなかに展開されるストーリーは照明の効果を抜きには語れない。昼間のショーウィンドウには昼間のショーウィンドウにふさわしい照明効果があるし、夜のショーウィンドウには夜のショーウィンドウにふさわしい照明効果がある。

そのあたりの効果をちゃんと考えている施主やディスプレイ・クリエイターたちは、ウィンドウの周囲の自然光の変化をきちんと計算した照明効果を、さまざまに工夫し、照明の技術者にも綿密に指示する。

そういう意味で筆者はかねがね、優れたディスプレイ・クリエイターは、エレクトリシャンの《友人》なのだ、これまた勝手に考えている。実際、優れたディスプレイ・クリエイターに鍛えられ、優れた照明デザイナーに成長した人の例も多いのではなかろうか。

ともあれ、そんなこんなで筆者の場合、ショーウィンドウのなかが最も劇的に見えるのは、百貨店や商店などが閉店後の、夜の風景だと思っている。あたりが夜の闇に包まれた時刻になると浮かび上がる、夜のショーウィンドウには、昼間のショーウィンドウにはないメランコリックなイメージが付加される。

逆に昼間のショーウィンドウには、明るい、ポジティブなイメージが横溢していることが多い。

と、断言してしまったけれども、それはあくまでも筆者の思い込みであり、個人的な印象に過ぎない。しかし、それでもあえてそのように力説したくなるほどに、優れたショーウィンドウ・ディスプレイには、独特の世界感がただよふのだ。